

2014 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	アジア地域研究科
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-3	教育方法 【 A 】
点検・評価項目(1)	4-3-1 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
	学習指導の充実
	学生の主体的参加を促す授業方法
	研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導
点検・評価項目(2)	4-3-2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
	授業内容・方法とシラバスとの整合性
点検・評価項目(3)	4-3-3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
評価の視点	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示）
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性
	既修得単位認定の適切性
点検・評価項目(4)	4-3-4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施
	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 点検・評価

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-3-1	博士課程前期課程および博士課程後期課程では、全授業科目でシラバスが作成され、授業内容に適した授業形態や授業方法が採用されている。前期課程の講義科目ではテーマ別にテキストが採用され、教員の講義と学生との討論が中心となっている。演習科目では、学生の修士論文のテーマに応じた個別指導が中心となっている。後期課程の演習科目ではテーマ別の学生の報告と討論を中心に行われ、論文作成指導では学生の博士論文作成に向けての個別指導が中心となっている。研究指導と学位論文の作成においては研究指導計画に基づく指導を行っている。
4-3-2	・博士課程前期課程および博士課程後期課程では、全学共通の書式による WEB シラバスが作成され、社会に公表されている。 また『大学院履修要項』に全授業科目のシラバスと学位論文の作成の手引きが掲載されている。 ・教務・広報委員会はシラバスを定期的に検証し、授業内容・方法とシラバスの整合性を確保している。
4-3-3	授業の目標やねらいに対応した成績評価の方法と基準を明記し、学生に周知を図っている。学生には、前期・後期各 1 回の研究報告会で、論文作成中に最低 1 回は研究の進展状況を報告することが義務付けられている。研究報告会には研究科に在籍する学生全員と教員が出席し、質疑応答を行うことによって、指導教員以外の教員や学生の多様な考えを聞く機会をもうけ、論文作成につなげている。また、定期的にアンケート調査を実施し、単位認定制度の適切性と既修得単位の認定の適切性を確認している。
4-3-4	研究科のFD活動のひとつとして、FD委員会が学生アンケートを定期的の実施し、その結果を研究科委員会に報告している。学生アンケートの内容には、授業の内容や方法に関する評価項目もあり、教育課程の見直しや授業改善に生かしている。授業改善のための組織的研修・研究については、研究科独自のFD研修会は実施していない。研究科内での教育成果に関する責任主体・組織、権限、手続きは明確にされている。また、研究科委員長と専攻主任が責任者として、教務・広報委員会とFD委員会と連携をしてアンケートなどを通して定期的な検証を行っている。

【効果が上がっている事項】

4-3-1	
4-3-2	全学共通の書式によるシラバスを作成し、研究科委員長と専攻主任が定期的にその検証を行っている。
4-3-3	
4-3-4	学生アンケートに基づき、随時カリキュラム改定を行っている。

【改善すべき事項】

4-3-1	本研究科での学位論文の指導は担当教員のみが行っており、他の教員との論文指導における連携体制が確立されていない。
4-3-2	
4-3-3	
4-3-4	学生アンケートの内容を充実させ、定期的の実施し、授業改善に役立てる。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

『大学院履修要項』、学生アンケート

《指標データ》

データ集（表 8）大学院における学位授与状況

- （表 1 0）公開講座の開設状況
- （表 1 1）学生の国別国際交流
- （表 1 2）海外への派遣学生数
- （表 1 3）国別留学生数（学部別）の経年変化
- （表 1 4）教員・研究者の国際学術研究交流
- （表 1 7）各年次ごとの履修登録単位数制限の状況

Ⅲ【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価					
			2014	2015	2016	2017	2018	
中期目標 (2014～ 2018)	4-3-4 学生アンケートの内容を充実させ、集計結果を基に改善案を策定し、実行する。	学生アンケートの内容改善を検討し、それを研究科委員会で承認し、実施する。	→					
	4-3-1 学位論文の指導にあたり、演習担当教員とともに、関連分野の他の教員も連携して指導できる体制を確立する。	学位論文指導における演習担当教員と他の教員の連携体制を検討し、それを研究科委員会で承認し、実施する。	→					
14年度 目標	4-3-4 新カリキュラムに対する学生の満足度を学生アンケートにより検証する。	新カリキュラムに対する学生の満足度を研究科委員会に報告する。	→	S				
	4-3-1 教務・広報委員会で学位論文指導の連携体制の在り方を検討する。	教務・広報委員会での学位論文指導の連携体制の検討結果を研究科委員会に報告する。	→	A				